

感動新聞 平成23年10月号 発行者 細川栄一

皆様、元気ですか？ 成功する秘訣はAAS（明るく、愛嬌、素直に）だそうです。意識してやりましょう。ビジネス経営の最前線で頑張っておられる方の役に立つ情報となればと思います。喜んで頂ければ幸いです。

空飛ぶ地下鉄

ある日、丸ノ内線にひとりで乗っていました。
昼間なのでそこそこ空いていましたが、ドア脇に立っていました。

そうしたら、やはり座らずに逆のドアにへばりついている、小さな少年がいました。
ようやく顔が、ガラス部分に届くほどの背の高さ、年長さんくらいでしょうか。
地下鉄なのでドアの外は真っ暗。
ガラスをのぞき込んでも、自分の顔と、時々光る白いライトが見えるくらい。
なのに熱心に見続けています。

ところが突然、周りが明るくなり、列車は空中へと放り投げられたかのように。
少年は「わあっ！」と声を上げます。
上は青空、はるか下には大きな川。
横は緑の崖と白いアーチの橋が、パノラマのように広がります。

でもそれも一瞬。
すぐにまた、列車は漆黒の闇の中に戻っていきます。
少年は興奮した声で、となりのお母さんに問いかけます。

「お母さん！ どうして地下鉄なのに、お外に出るの？」

若いお母さんは、慌てず騒がず、のんびりとうこう言いました。

「だって、地下鉄だって、たまにはお日様浴びたいでしょう！」

「そうかぁ」

納得した少年は、また、暗い外へと目を向けました。

これこそが、最高の説明だと思います。

でもあえて、別の説明をすると丸ノ内線は古いから」ということになるでしょう。
銀座線は1927年、丸ノ内線は1954年に開通した日本最古の地下鉄たちです。
地下に邪魔ものも少なく、それほど深く掘る必要がなかったので、みな浅いところを走っています。
だから地上部分が多いのです。

それともう一つは「地面がデコボコしていること」です。

丸ノ内線のお茶の水付近で少年が見た川は、神田川です。

やはり、大きな谷（お茶の水溪谷）の底を流れています。

でも人口のもの、あの徳川家康がつくった川なのです。

家康は、大きな丘陵地であった神田山をぶち抜いて神田川をつくり、その掘削土で日比谷入り江を埋め立てて、譜代大名の屋敷用地を作りました。

石神井公園の石神井池を源流とする神田川は、これによって江戸市民の上水源となり、江戸城の外堀となり、江戸湊からの運搬路となりました。

ペンギンカフェをつくる 三谷宏治著 東洋経済新報社参照

少年の視点、いつまでも大切にしたいものですね。